

第42回 日本医学放射線学会秋季臨床大会

第20回 胸部放射線研究会

The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of
Thoracic Radiology



2006・Fukuoka

大会長：早渕 尚史（久留米大学医学部放射線医学教室）

当番世話人：村山 貞之（琉球大学医学部放射線医学分野）

日時：平成18年10月27日(金)

会場：福岡国際会議場

ご 挨拶

第20回 胸部放射線研究会当番世話人
琉球大学医学部放射線医学分野

村山 貞之

本年の第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会は、久留米大学放射線科早渕尚文先生の会長のもと、福岡市で開催されます。昨年からは胸部放射線研究会は、秋季臨床大会開催地域から当番世話人が選ばれ開催されることになっており、本年度は私、琉球大学の村山が当番世話人を仰せつかった次第です。

この研究会は、丸一日興味ある症例の画像の発表がなされ、それに病理の先生のコメントが加わるという、放射線科医にとって絶好の勉強の機会であり、研究会の人気も高いものと思います。私自身の本研究会との関わり合いは、おそらく第5回からだだったと思います。その後は、ほぼ毎年参加しています。私は、自分の講演会や講義の枕で、“目は心の窓”という言葉になぞらえた、“肺(胸部X線写真の)は体の窓”という造語をよく使いますが、胸部X線写真、CTに映し出される疾患の病態を解明していくのは、胸部画像診断の醍醐味と思っています。しかし、なかなか確定診断が得られぬままに抗生剤やステロイド剤の診断的治療により迷宮入りしてしまい、“あの症例は何だったのだろう”というストレスに苛まれるのも胸部放射線診断を志すものの宿命かもしれません。この研究会の症例は、病理の答えが用意されている魅力的な症例ばかりであり、今までに疑問に思っていたことが解消された経験も多数あります。

数年前、この研究会のあり方の見直しの話し合いがあり、最終セッションでは症例検討会や特別講演を行うことになったものの、胸部疾患の画像診断とその病理像をとことん突き詰めていくことをモットーとした研究会のスタイルは踏襲されることになり現在に至っています。今回も36もの演題が集まり、6つのセッションに分かれて討議されます。皆さんもこの研究会の発表症例で初めて知った疾患や所見など多数あるのではないのでしょうか。まさに胸部放射線診断医を育ててきた20年間だったと思います。

最近の胸部放射線診断の世界は、肺癌の分子標的治療薬や抗リウマチ新薬による薬剤性肺傷害、アスベスト関連胸膜・肺病変と、話題に事欠きません。今回私が企画いたします特別企画として、アスベスト関連肺・胸膜疾患の画像診断を岡山大学の加藤勝也先生に御講演いただくことにしております。

今回の研究会が実り多きものとなることを祈りつつ、挨拶とさせていただきます。

第20回 胸部放射線研究会プログラム

開会の挨拶 (8:40~8:45)

当番世話人 村山 貞之

セッション1 (8:45~9:39)

座 長 : 原 眞咲(名古屋市立大学放射線科)

病理コメンテーター: 福岡 順也(富山大学附属病院病理部)

- 1 肥大性骨関節症を伴った Solitary fibrous tumor の一例
聖マリアンナ医科大学 放射線医学教室 吉松美佐子
- 2 臓側胸膜を挟んで肺内外の両方向へ発育していた孤立性線維性腫瘍の1例
聖路加国際病院 放射線科 石山 光富
- 3 卵殻状石灰化を伴った胸腺腫の一例
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 放射線医学 新家 崇義
- 4 上大静脈に著明な腫瘍栓を形成した浸潤型胸腺腫の一例
京都大学医学部 放射線医学講座 藤本 晃司
- 5 Mucinous cystic tumor in the thymus の1例
久留米大学医学部 放射線科 佐土原順子
- 6 肺動脈内膜肉腫の1例
金沢大学医学部 放射線科 森永 郷子

セッション2 (9:39~10:42)

座 長 : 芦澤 和人(長崎大学医学部放射線科)

病理コメンテーター: 林 徳真吉(長崎大学医学部附属病院病理部)

- 7 右下葉無気肺を契機に見つかった気管支内脂肪腫の1例
大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学放射線科 梁川 雅弘
- 8 両側性気管支壁肥厚を来した原発性シェーグレン症候群の一例
神戸大学大学院医学系研究科 生体情報医学講座放射線医学分野 野上 宗伸
- 9 粗大な石灰化を含み検診で発見された異物性肉芽腫症
香川大学医学部 放射線科 室田真希子

- 10 glandular papilloma の1例
名古屋市立大学病院 放射線科 中川 基生
- 11 Pneumocytoma の一例
京都大学医学部 放射線医学講座 川西 京子
- 12 気管支放線菌症の1例
山口大学 放射線科 松本 常男
- 13 珪肺、石綿肺に結節影を呈した1例
医療法人川崎病院 放射線科 木村 和彦
-

セッション3 (10:42~11:36)

座 長 : 青木 隆敏(産業医科大学放射線科)
病理コメンテーター: 福岡 順也(富山大学附属病院病理部)

- 14 短期間での急速なリンパ節腫大が観察された micropapillary pattern を有する肺腺癌の一例
聖路加国際病院 放射線科 負門 克典
- 15 大動脈周囲に腫瘤を形成した3例
滋賀医科大学 放射線科 石田 愛
- 16 肺野および所属リンパ節にサルコイド様反応を伴った若年者肺癌の一例
産業医科大学 放射線科 三島 慶子
- 17 気管支鏡検査を契機に肺膿瘍と膿胸を発症した空洞性肺扁平上皮癌の一例
昭和大学横浜市北部病院 放射線科 馬場麻衣子
- 18 稀な進展形式を呈した肺扁平上皮癌の1例
日本大学医学部附属板橋病院 放射線科 前林 俊也
- 19 線維化の進行に癌の関与が推定された1例
天理よろづ相談所病院 放射線部診断部門 東野 貴徳
-

昼 休 み

世話人会 (12:00~13:00) 場所: 402+403会議室

セッション4 (13:30~14:15)

座 長 : 藪内 英剛(九州大学医学部放射線科)
病理コメンテーター: 林 徳真吉(長崎大学医学部附属病院病理部)

20 多発異型腺腫様過形成の一例

京都市立病院 放射線科

伊藤 博文

21 Ciliated muconodular papillary tumor の1例

山梨大学 放射線科

松本 敬子

22 CT ですりガラス陰影を呈した肺硬化性血管腫の1例

東広島医療センター 放射線科

富吉 秀樹

23 Pancoast 型肺癌との鑑別が困難であった類上皮血管内皮腫の一例

長崎大学病院 放射線科

筒井 伸

24 肺原発滑膜肉腫と考えられた1例

十全総合病院 放射線科

長谷聡一郎

セッション5 (14:15~15:18)

座 長 : 上甲 剛(大阪大学保健学科)
病理コメンテーター: 福岡 順也(富山大学附属病院病理部)

25 IgG4関連(自己免疫性膵炎関連)肺病変の2例

倉敷中央病院 放射線科

中谷 航也

26 血清 IgG4 高値を示した Multicentric Castleman's disease の1例

信州大学 画像医学講座

柳沢 新

27 乳癌術前化学療法後に過敏性肺炎様の薬剤性肺障害を呈した一例

聖路加国際病院 放射線科

岡島 由佳

28 乳癌治療後の経過観察中にサルコイドーシスを併発した3症例

豊川市民病院放射線科

小林 晋

29 Respiratory Bronchiolitis-Interstitial Lung Disease の一例

九州医療センター 放射線科

古谷 清美

30 健常成人に発症した黒色真菌(Bipolaris spicifera)による全身性播種性真菌症の1例

佐賀大学医学部 放射線科

中園 貴彦

31 両側びまん性に分布する多発結節影を示した Pneumocystis pneumonia の1症例

山口大学 放射線科

松隈 聡

セッション6 (15:18~16:03)

座 長 : 栗原 泰之(聖マリアンナ医科大学放射線科)

病理コメンテーター: 林 徳真吉(長崎大学医学部附属病院病理部)

32 右肺中葉に発生した肺葉内分画症の1例

東京慈恵会医科大学 放射線医学講座

氏田万寿夫

33 Congenital cystic adenomatoid malformation 類似の病理像を呈した
反復性肺炎の一成人例

琉球大学医学部 放射線科

山城 恒雄

34 前立腺癌による癌性リンパ管症に内分泌療法が著効した一例

九州労災病院 放射線科

渡辺 秀幸

35 胸壁から後腹膜腔、腹腔内に進展した放線菌膿瘍の1例

九州大学大学院 臨床放射線科学

瀬戸口太郎

36 繰り返す気胸を契機に発見された悪性中皮腫の一例

聖路加国際病院 放射線科

松迫 正樹

セッション7 (16:25~17:25)

教育講演 アスベスト関連肺・胸膜疾患の画像診断

演 者: 加藤 勝也(岡山大学医学部 放射線科)

座 長: 村山 貞之(琉球大学医学部 放射線科)

閉会の挨拶 (17:25~17:30)

代表幹事: 村田喜代史

第12回中国四国胸部画像カンファレンス プログラム

開催日：平成17年11月5日(土) 14:00～17:00

場 所：岡山プラザホテル 5階「延養の間」

岡山市浜2-3-12 TEL 086-272-1201

当 番 世 話 人：岡山大学大学院 放射線医科学 加藤 勝也

コメンテーター：国立病院機構 岡山医療センター 山鳥 一郎

発表症例

座長：山口大学医学部 放射線科 田中 伸幸

出題者	解答者
1 広島市民病院 西原 礼介 「肺腫瘍の一例」	川崎医科大学 東 浩樹
2 香川大学医学部 木村 成秀 「胸腔内腫瘍」	広島大学医学部 松浦 範明
3 山口大学医学部 杉原 正浩 「息切れを主訴に受診し、右下葉の塊状陰影を示した一例」	徳島大学医学部 松岡 葵

《 休 憩 》

座長：岡山大学大学院 放射線医科学 加藤 勝也

4 徳島大学医学部 松岡 葵 「他疾患で全身検索中に偶然発見された胸部異常影」	高知大学医学部 田所 導子
5 高知大学医学部 村田 和子 「検診を契機に発見されたびまん性肺疾患」	愛媛大学医学部 村上 忠司
6 岡山医療センター 牧 大介 「検診にて発見された胸部異常陰影の一例」	香川大学医学部 戸上 太郎

共 催：中国四国胸部画像カンファレンス（胸部放射線研究会中国四国支部）第一製薬株式会社

Journal of Thoracic Imaging への掲載について

Journal of Thoracic Imaging (JTI) は、Society of Thoracic Society (STR), Japanese Society of Thoracic Radiology (JSTR), Korean Society of Thoracic Radiology (KSTR) の Official Journal で、Impact factor 0.763 (2001) の雑誌です。

2002年の RSNA において開催された編集会議において、日本の胸部放射線研究会事務局と雑誌編集事務局の間で、以下の点が合意されました。

日本の胸部放射線研究会によって査読され採用が決定された3つの英文の Case report を JTI の review を省略して Journal of Thoracic Imaging にまとめて掲載する。

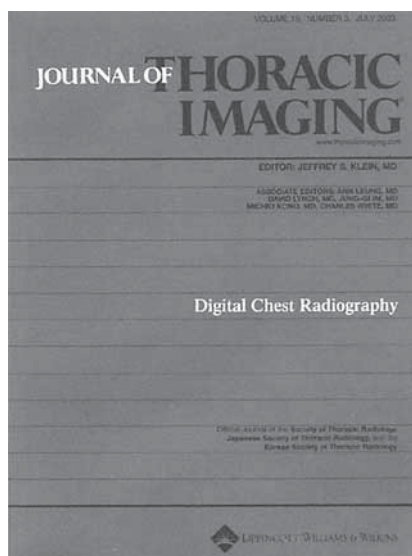
今後の予定

本年10月27日	胸部放射線研究会
12月	世話人の推薦によるJTI候補演題の決定、論文執筆の依頼
来年3月	論文締め切り
4月	査読
5月	改訂および再投稿
6月	JTIに3論文送付

JTI 日本事務局：琉球大学医学部放射線医学分野

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207

TEL：098-895-1162 FAX：098-895-1420



NPO 法人について

事務局では胸部放射線研究会が独自の財政基盤を持ちながら、学術集会ばかりでなく、種々の活動を推進していくために、NPO 法人を2003年11月に設立しました。胸部放射線医学に興味をもち発展を願う人なら誰でも参加できる組織で、法人格を得て種々の活動を積極的に進めていこうとするものです。

名 称：特定非営利活動法人(NPO 法人) 日本胸部放射線医学研究機構
Japan Thoracic Radiology Group (JTRG)

事 業：・胸部放射線医学領域における学術振興のための研究会開催の支援
・胸部放射線医学領域における多施設共同臨床研究の支援
・胸部放射線医学領域における民間機関との共同研究の支援
・胸部放射線医学領域における国際協力活動あるいは共同研究の支援
・医療従事者ならびに社会一般に対する胸部放射線診療の広報活動

正会員：入会金 1万円 年会費 1万円

準会員(企業)：入会金 2万円 年会費 2万円

このNPO 法人に興味をもたれ、資料や入会申込書等を必要とされる方は、E-mailにて胸部放射線研究会事務局まで氏名、所属機関名、連絡先住所、電話番号をお知らせください。資料を送らせていただきます。

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学放射線医学教室内
胸部放射線研究会事務局
TEL：077-548-2288
FAX：077-544-0986
E-mail：hqradiobelle@shiga-med.ac.jp

第1回アジア胸部放射線学会報告(1)

国立がんセンター中央病院 放射線診断部 楠本 昌彦

第1回アジア胸部放射線学会(The 1st Asian Congress of Thoracic Radiology ; ACTR)は、2006年6月16日、17日の二日間にわたって、韓国のソウルで開かれた。会場は、ソウルを東西に横切る漢江の南側の松坡区にあるロッテホテルワールドで、旧市街地からは少し離れるが、交通の便利の良い場所で開かれた。幸い2日間とも天候に恵まれ、日中は汗ばむ位の陽気であった。

今回のアジア胸部放射線学会は、2003年に韓国プサンで開かれた第1回日韓胸部放射線学会を礎としている。翌年淡路島で行われた第2回日韓胸部放射線学会の際の世話人会で、次はアジア全体に広げて行いたいとの意向が確認され、今回の第1回のアジア全体の学会として船出することとなった経緯がある。

参加者は主催者の資料によると合計207名で、国別地域別の参加者は、地元韓国が135名、日本が46名、台湾が13名、中国本土が7名、ロシアが3名、イスラエルが3名であった。参加者の内訳について地元韓国が多いは当然としても、日本と韓国の参加者が主体となっているのは、今回の学会が日韓の胸部放射線学会が主体となって進めてきたことに起因すると思われる。

さて、学会そのものは2つの Hot topics、4つのリフレッシュコース、2つのランチョンセッション、1つの Expert Debate、と一般演題と展示発表、それに企業展示からなっていた。Hot topicsには「胸部悪性疾患」と「新技術」の2つがあり、それぞれのセッションで日本からは愛媛大の安原先生、神戸大の大野先生、愛知医大の石口先生が発表された。教育講演は、「HRCT」、「気道の画像診断」、「心血管」、「肺癌」の4つで、各々セッションで滋賀医大の高橋先生、香川大学の佐藤先生、聖マリアンナ医大の松岡先生、名古屋市大の原先生、国立がんセンター中央病院の立石先生が発表を担当された。ランチョンセミナーでは九州大の坂井先生が、Expert Debate では肺生検がテーマで、大阪大の富山先生がわが国の1万例の集積によるまれな合併症について発表された。

口演の一般演題は19題、展示発表は43題で、展示は二日間に渡って掲示された。優秀な展示発表は表彰され、金賞には大分赤十字病院の安藤先生が「ATLとHTLV-1キャリアのCT所見の比較」の発表で、銀賞には大分大の岡田先生が「豚回虫のCT所見」の発表で受賞された。

フィルムリーディングセッションには8題の出題に対して、日本韓国各々2名ずつの回答を担当した。日本側からは天理よろず相談所病院の野間先生と聖マリアンナ医大の栗原先生が担当され、それぞれ名答された。

2日間という限られた時間ではあったが、会場内での活発な議論に加え、休憩時間や懇親会などの様々な場面で、韓国を始め様々な国の胸部放射線科医師が交流することができた。随所に暖かく客人を迎える配慮がなされており、他国から参加した人の気持ちを和ませ、心地よい印象を持つことができた。第2回のアジア胸部放射線学会は2010年に開催予定で、それに先立って2007年に横浜で第3回日韓胸部放射線学会が開催される予定である。わが国からの積極的な参画と参加で、これまでの両国の胸部放射線医学の交流をさらに深め、アジア諸国全体に発信していくことが望まれるであろう。

第1回アジア胸部放射線学会報告(2)

東京都立駒込病院 放射線診療科 酒井 文和

2006年6月16、17の両日、ソウルロッテホテルワールドにおいて第1回アジア胸部放射線会議(Asian Congress of Thoracic Radiology ACTR)が開催された。本学会は、アメリカ胸部放射線学会(STR)、欧州胸部放射線学会(ESTR)とともに昨年イタリアで第1回会議が開催された世界胸部放射線学会WCTRの一翼を担うものとして、日韓胸部放射線研究会を母胎として計画されたものである。発足の経緯から参加者の多くは、韓国と日本からであったが、中国本土と台湾からも代表が参加した。日本からは、河野通夫先生、村田喜代史胸部放射線研究会会長をはじめ多くの胸部放射線科医が参加したが、今回は若手医師の参加も目立ち大変喜ばしいことであった。

会議の内容は refresher course といくつかの hot topics に関する symposium、一般演題の口演、展示発表ときわめて濃厚なものであった。Hot topics の内容は、あらたな撮影技術の開発やその臨床用に関するもので、肺の機能画像や MDCT の被曝、MDCT による冠動脈イメージングなどの問題が扱われた。また肺の悪性腫瘍に関するものでは、肺癌の CT スクリーニングや CT/PET の応用に関する問題などが扱われた。Refresher course や Luncheon session では、胸部診断学の広範な内容が過不足なく扱われていた。恒例の Image interpretation session では、軽妙な司会のもとに進行が進められ、出演者の先生方にはやや気の毒ではあるが聴衆は十分にこの entertainment を楽しむことができた。これらのセッションの内容やレベルや議論の質は十分に高いものであった。

一般演題の多くは、韓国と日本からのものであり、その内容も多岐にわたったが、口演、展示発表とも韓国と日本の演題のレベルは極めて高かった。特に大分医大からの豚回虫による肺病変の報告は興味あるものであった。さらにその他の参加国からの演題数の増加と内容のレベルアップが期待される。

学会の運営と内容を見る限りは十分な内容を維持しており、アジア胸部放射線会議と名乗るに十分な内容を持っていたと思われる。これで学会の受け皿が完成されたわけであるから今後は日本、韓国以外の国の参加と演題のレベルアップが必要であろう。またアジア諸国の学術活動の場としての特長をいかに打ち出してゆくかもこれからの問題と思われる。

After five は、Korean Hospitality が十分に発揮され韓国と日本を中心に、中国、台湾などの放射線科医の親睦交流が深められたことの意義は大きい。アジア諸国の放射線科医との交流こそ本学会の大きな目的の一つでもある。学会終了後の焼肉 party で来年の横浜での再会を約して2日間にわたる学会は成功裡に終わった。

筆者は、ソウルはなんと13年ぶりの訪問であった。前回訪韓したときにあった旧総督府の建物は撤去され、ソウルの街並みも大きく変貌し、看板のハングルさえなければ東京の街中の風景と何ら変わらない中で、日本と韓国の類似性を改めて感じた。しかし、郊外に移転建築された国立中央博物館を訪れた際に、地下鉄の切符売場などでの人々の振舞いを見ると韓国人の自己主張の強さなど日本人とは大いに異なる点も感じられた。

アジア胸部放射線会議としての受け皿が整ったわけであるから、今後はこの会議の実質をその名に値するものに育てて行かなければならない。当面は韓国と日本が協調してリーダーシップをとって進んでゆかなければならない訳であり、このためには両者の違いを十分に認識し、相異は相異として理解して受け入れながら協調関係を育てていかなければならないことを再認識した次第である。

ご 案 内

胸部放射線研究会 10月27日(金) 8:40～ 第4会場(502+503)

口演発表者へのご案内

発表について

- 1) PC プレゼンテーションの発表に限らせていただきます。
- 2) 参加受付終了後、各自のセッション開始予定時刻の30分前までに PC センターまでご自身のPCをご持参の上、発表データの動作チェックを行って下さい。なお、音声出力はできませんのでご注意ください。
- 3) 講演予定時刻の20分前になりましたらPCを次演者席近くのPCオペレーター席へお持ちください。
- 4) 発表時間は司会者に従い厳守して下さい。発表6分、質疑応答3分を予定しております。
- 5) 会場内でのテスト出力はできませんのでご注意ください。

PC プレゼンテーションについて

- 1) 必ず発表に使用するPCはご持参下さい。また、バックアップ用にデータもご持参下さい。発表機種は、Windows98以上かMacintosh (Mac OS 8.5)以上が動作するPCを使用することをお勧めします。
- 2) 発表中またはその準備中にバッテリー切れになることがあるため、コンセント用電源アダプターは必ずご持参下さい。
- 3) プロジェクターとの接続は〔mini D-sub 15pin〕です。モニター出力端子が〔mini D-sub 15pin〕でない場合は、必ず変換ケーブルをご持参下さい。
- 4) 出力解像度はXGA(1024×768)です。これ以上のサイズでデータを作成すると、ご自身のPC画面上では正常でも、実際に映写されると正しく表示されないこともありますのでご注意ください。また、スクリーンセーバーや省電力機能等の設定がされていないことをご確認願います。
- 5) 動画を使用する場合は、必ずPCセンターにてテストランをしてご確認下さい。
- 6) バックアップデータとしてCD-ROMまたはUSBメモリスティックにてデータを必ずご持参下さい。

第20回 胸部放射線研究会 プログラム・抄録集

発行：胸部放射線研究会

事務局：滋賀医科大学放射線医学教室

〒520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL：077-548-2288

FAX：077-544-0986

E-mail：hqradio@belle.shiga-med.ac.jp

制作：Next COMPANY **Secand** 株式会社 セカンド

熊本県熊本市水前寺4丁目39-11

TEL：096-382-7793

協賛・広告掲載会社一覧

アストラゼネカ株式会社
株式会社伊垣医療設計
イーザイ株式会社
株式会社エルクコーポレーション
キヤノン株式会社
株式会社京都科学
財団法人近畿健康管理センター
株式会社クリニカルサプライ
コニカミノルタエムジー株式会社
GE 横河メディカルシステム株式会社
シーマン株式会社
シーメンス旭メディテック株式会社
塩野義製薬株式会社
第一製薬株式会社
タイコヘルスケアジャパン株式会社
大正富山医薬品株式会社
株式会社ダテメディカルサービス
田辺製薬株式会社
中外製薬株式会社
東芝メディカルシステムズ株式会社
日本メジフィジックス株式会社
日本イーライリリー株式会社
日本シエーリング株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
株式会社フィリップエレクトロニクスジャパン
ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社
増田医科器械店
ミカサ商事株式会社
株式会社メディコスヒラタ
メルク株式会社

〈50音順〉